

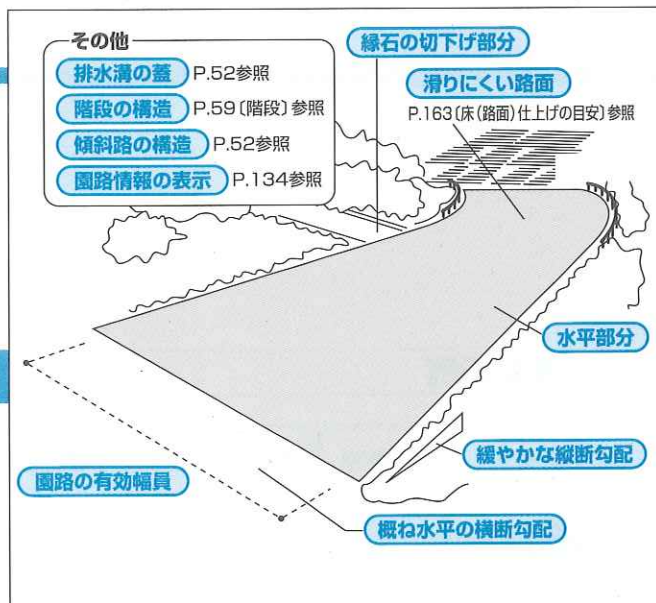
4 公 園

(2) 園 路 ①

設計のポイント

主要な園路は、高齢者、障害者等が支障なく通行できるように、必要な有効幅員の確保や段差、路面の仕上げ等に配慮する必要があります。

- 有効幅員は、120cm以上とします。
- 段差や横断勾配に配慮が必要です。
- 縦断勾配は、できるだけ緩やかな勾配（4%以内）が望まれます。
- 視覚障害者を誘導する誘導用床材が必要です。



整備基準

【適用施設／公園（自然公園等を除く。）】

※自然公園の適用除外について

自然公園法に基づく自然公園は、自然の優れた風景地の保護を目的として指定された区域であり、当該区域内の風致を維持するために、現状の変更にかかる行為には一定の規制がかけられてため〔園路〕についての整備基準を除外しています。

●整備基準

- 1 (1)の項に定める構造の出入口又は改札口から便所又はあずまや若しくは休憩所に通ずる園路のうち、1以上の園路は、次に定める構造とすること。ただし、自然地形又は文化財の保護等の理由により当該構造とすることが困難である場合は、この限りでない。

- ア 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料^⑧で仕上げること。
- イ 幅員は、120cm以上とすること。
- ウ 縦断勾配は、8%以下とし、かつ、横断勾配は、おおむね水平とすること。
- エ 4%以上の縦断勾配の区間の長さが50mを超える場合は、50m以内ごとに踏幅150cm以上の水平な部分を^⑨設けること。
- オ 緑石を切り下げる場合は、切下げ部分の幅及びすりつけ勾配は、それぞれ120cm以上及び8%以下とし、かつ、車いす使用者が通過する際に支障となる段^⑩を設けないこと。
- カ 園路を横断する排水溝を設ける場合においては、当該排水溝には、つえ及び車いすのキャスター等が落ち込みにくい構造の溝^⑪を^⑫設けること。

- 2 段を設ける場合においては、当該段は、次に定める構造とすること。

- ア 幅は、内法を120cm以上とすること。
- イ 手すりを設けること。
- ウ 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。
- エ 高低差が300cmを超える場合は、高低差300cm以内ごとに踏幅140cm以上の踊場を設けること。
- オ 段の上端及び下端に接する園路及び踊場の部分には、注意喚起用床材を敷設すること。
- カ 次に定める構造の傾斜路及びその踊場を併設すること。
 - (ア) 幅は、内法を90cm以上^⑬とすること。
 - (イ) 傾斜路の縦断勾配は、8%以下とすること。
 - (ウ) 高低差が75cmを超える場合は、高低差75cm以内ごとに踏幅150cm以上の踊場を設けること。
 - (エ) 手すり^⑭を設けること。
 - (オ) 表面は、粗面とし、又は滑りにくい材料で仕上げること。
 - (カ) 傾斜路の上端及び下端に近接する園路及びその踊場の部分に、注意喚起用床材を敷設すること。

●基準の解説

- ① 車いす使用者が公園を利用する場合、便所が少なくとも1カ所以上利用できるようにするとともにあずまや又は休憩所が少なくとも1カ所以上利用できるようにするためです。
- ② 自然地形又は文化財保護等の理由により、整備基準の適合が困難である部分（項目）のみを緩和しており、園路全体について適用除外するものではありません。
- ③ P.134参照
- ④ 車いすで勾配のある長い距離の園路を移動することは困難であるため、50m以内ごとに休憩可能なスペースを確保するものです。
- ⑤ P.37参照
- ⑥ 高低差2cm以下でゆるやかなすりつけを行った段以外のものです。〔P.48参照〕
- ⑦ P.52参照

⑧ 車いすが通行しやすい寸法です。

⑨ P.167〔手すり〕参照

●整備例

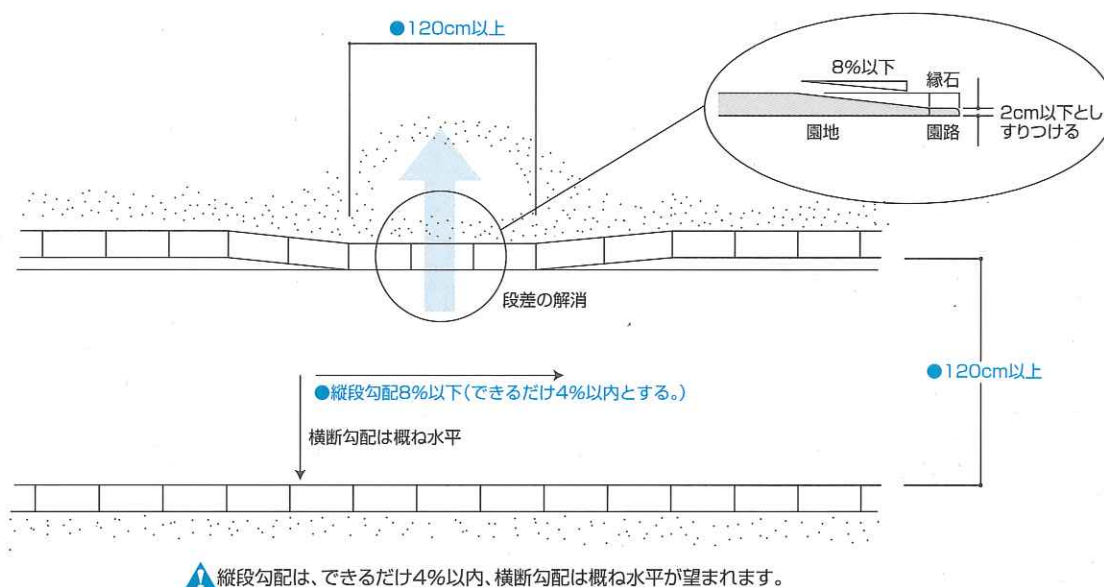
● 条例による整備基準

無印 標準的な寸法や配慮の例

▲ 参考事例等

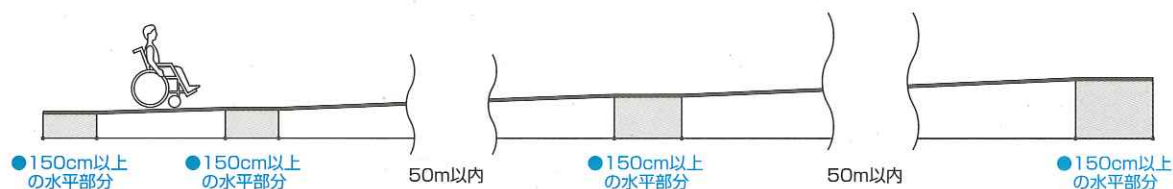
⊗ 注意マーク

勾配



水平部分

4%以上の勾配が50m以上続く場合



- ▲ 勾配のある園路が長く続くと、下りの時に加速がついたり、上りの時の負担になり危険です。また、上りの時には休憩したり加速をつけるために水平部分が必要となります。
- ▲ 車いすが通行する園路は、長い区間のスロープを設けないことが望まれます。

4 公 園

(2) 園 路 ②

●整備例

● 条例による整備基準

無印 標準的な寸法や配慮の例

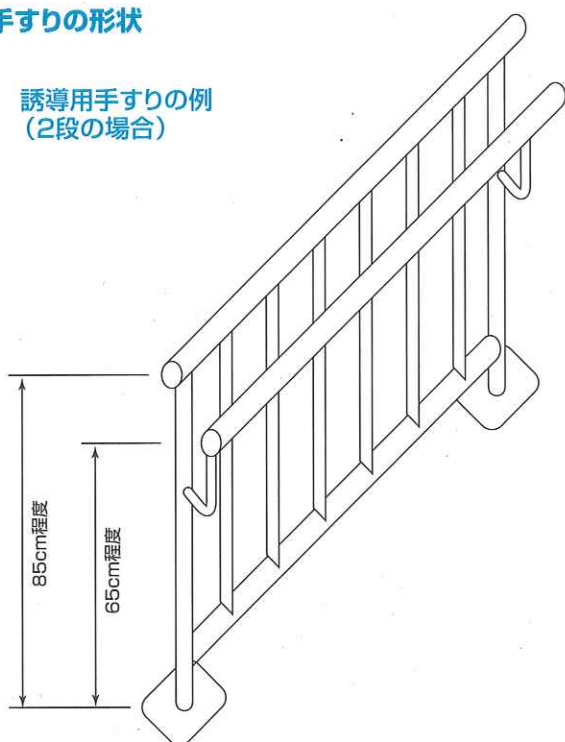
▲ 参考事例等

⊗ 注意マーク

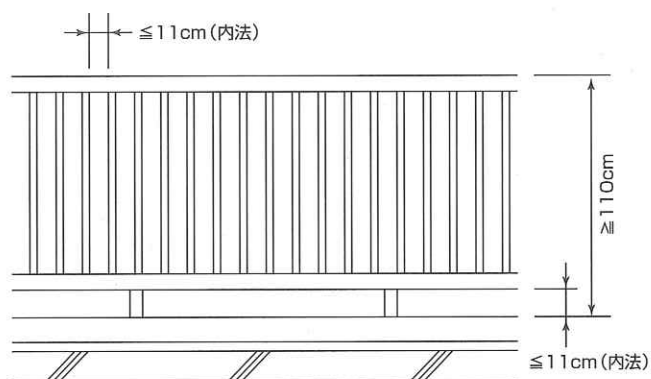
■ 手すり

手すりの形状

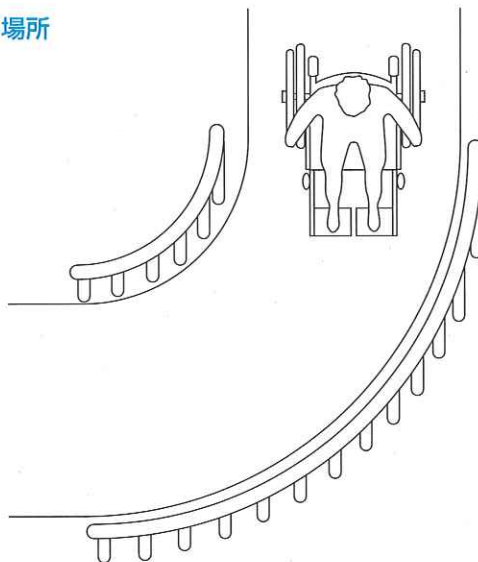
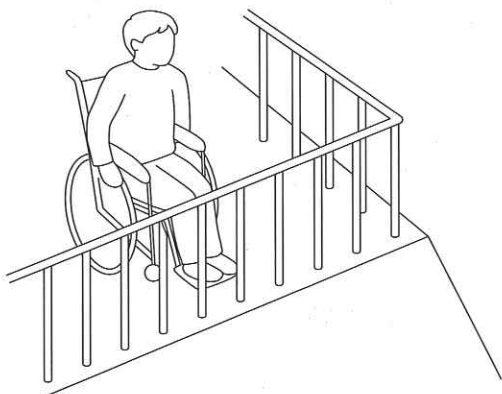
誘導用手すりの例
(2段の場合)



落下防止用柵の例



崖側や園路が折れ曲がる場所



▲ 崖側や園路が折れ曲がる場所には柵などを設けます

園路の仕上げと設計・施工上の配慮事項

表面仕上げ区分	通 行 性	配 慮 事 項
☐ アスファルト舗装 ☐ コンクリート舗装 ☐ 豆砂利洗い出し舗装	● 一般に凹凸が少なく、滑りにくいいため通行しやすい。	● 透水性に乏しいため、排水処理に配慮が必要となる。 ● 透水性アスファルト舗装や透水性コンクリート舗装がある。
☐ レンガ舗装 ☐ タイル舗装 ☐ インターロッキング舗装 ☐ 木レンガ舗装	● レンガ等の目地の凹（窪み）が大きいと車いすに振動が伝わりやすく、杖やつま先がひっかかりやすい。 ● 路盤面が軟弱な場合、レンガ等が浮いたり傾いたりして凹凸が出来やすい。 ● 素材や仕上げによっては、表面が濡れると滑りやすいものがある。	● できるだけ目地幅を詰める。 ● 地盤の悪い場所や車が入り入れる箇所等では、路盤の構造も含めて配慮が必要となる。 ● 濡れても滑りくい材料を選択する。（特に傾斜面では配慮が必要。）
☐ 土系舗装	● 一般に凹凸が少なく、滑りにくいいため通行しやすい。	● 表面が柔らかく雨による浸食等により凹凸が出来やすいため、十分な維持補修が必要となる。 ● 透水性に乏しいため、排水処理に配慮が必要となる。
☐ 芝舗装 ☐ 木チップ舗装	● 表面が柔らかく、車いすの通行は困難。	● 車いすの通行が予測される箇所には適さない。
☐ 砂利舗装	● 締め固めをしない砂利敷きでは、車いすの車輪が食い込みやすく通行は困難。	
☐ 石張舗装 （右欄の他、レンガ舗装の欄を参照）	● 自然石等で表面の凹凸や目地が大ききものは杖使用者や車いすによる通行は困難。 ● 磨き仕上げをしたものは、濡れると滑りやすい。	
☐ 小舗石張舗装	● 表面に凹凸のある割肌のものは、車いすに振動が伝わりやすい。	● 小叩き仕上げ、ジェットバーナー・ポリッシュ仕上げ（JP）など凹凸が小さく滑りにくい仕上げとする。 ● 車いすの通行が予測される箇所には、割肌のものは適さない。 ● できるだけ目地幅を詰める。

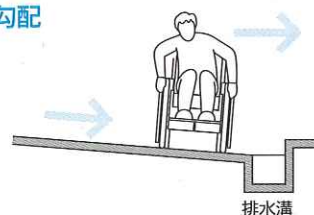
排水勾配

縦断勾配



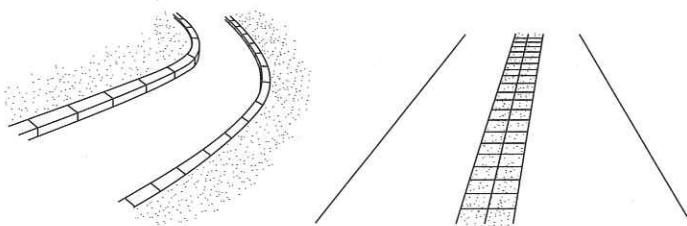
⚠ 園路排水は横断方向より縦断方向にとる方が望まれます。

横断勾配



⊗ 車いすがまっすぐに通行しにくい。

縁石等の連続性の確保



⚠ 視覚障害者の園内誘導のため、園路の境界部分の縁石や縁板、目印となるタイル舗装や石張、舗装等を連続させることが望まれます。

園路情報の表示例



階段あり



急な坂あり



でこぼこあり

⚠ 園路の一部に高齢者、障害者等が通行しにくい箇所がある場合は、その情報を手前の分岐点や要所に表示することが望まれます。